

令和6年度 幼保連携型認定こども園「もり保育園」事業計画書

概 要

いついかなる状況になろうと、保育の質を堅持することを念頭に置き、事業所での基盤をしっかりと安定させる。生駒市においても少子化が進みつつあり、園児数の減少も考えられるが、地域社会の中の保育園としての役割を今まで以上に意識し、周囲の方とも協力しながら、課題を解決し、また未来的思考を常に持ち前向きに進んでいく。

子どもたちを主体とした保育内容も工夫し、子どもたちに必要な力を培う。また、異年齢児保育等も取り入れ保育の幅を広げていくようにもしていきたい。保育者も、経験を活かし保育の質を下げない中での内容の工夫をするようシフトチェンジしていく。

家族に子どもたちの日々の様子を丁寧に伝えられる方法を考え、必要な時には助言をさせていただきながら、子どもたちの成長を互いに喜び合える関係作りを進め、信頼の構築を目指す。

1 施設運営方針

教育及び保育の基本方針

「安心」「自信」「自由」をキーワードに大切な子どもたちの成長を願う。

「安心」

子どもたちが安心して遊び学べ、保護者の方に安心して預けてもらえる保育園作りをします。近隣の方や行政をお願いして、子どもたちが安心して暮らしていける環境づくりに取り組みます。

「自信」

子どもたちが、自分の意見やアイデア、計画などを自分らしさの中で考えてもらいたい。そのためには、子どもたちにさまざまな経験の中で自信を持たせることが必要だと考えます。ほめる、認める、一緒に考える、遊ぶ、学ぶの中で、一人の人間として自信を持つ子どもたちへ育てていきます。

「自由」

幼児期の子どもたちは、社会性を身につける意味で大切な時期です。自信を持って個性を發揮する一方、のびのびと自由にするためには、他の人の存在や自由も認めなければいけない。それが「思いやり」でありとても大切な事だと伝えていきます。

2 児童の処遇方針

〔理 念〕

子どもの心を大切に、常に子どもの視点に立って接していくなかで、子ども達が安心して生活できること（満足）、そして一人一人の子どもがもっている限りない可能性を、子ども自身の力で開花させていくこと（感動）、いろいろな体験を通して、のびのびと過ごし、「生きる力」を身につけること（生きがい）。これらの保育実践を職員がそれぞれの役割を担い深い愛情とたゆまぬ努力により実践すること。また豊かな創造性を持った子どもたちの健全育成を使命とし社会貢献にあたる。

〔教育及び保育方針〕

「子どもは子どもらしく」を基本に、のびのびとした環境の中で、想像力、集中力を養う。心豊かな成長を願い、メリハリのある保育を目指す。

- ・心と体の健やかな成長を願う。
- ・豊かな感性を養う。
- ・人を思いやる優しい心を培う。
- ・のびのび創造する力をつける。
- ・基本的生活習慣を身に付ける。

3 日課・年間予定]

[デイリープログラム] 1号認定

3～5歳児	
	順次登園
9時	健康等の観察 着替え 自由遊び かたづけ
10時	午前の活動 (あそび・体験活動・各教室・園外保育 など)
11時	給食
12時	
13時	順次降園 預かり保育
14時	3歳・4歳 午睡 5歳 午後の活動
15時	着替え おやつ 自由遊び
16時	
17時	
18時	延長保育
19時	降園準備 順次降園
20時	保育終了

[デイリープログラム] 2号・3号認定

	0歳児	1歳児	2歳児	3～5歳児
7時	順次登園 健康等の観察・検温	順次登園 健康等の観察	順次登園 健康等の観察	順次登園 健康等の観察
8時	衣類点検・おむつ交換 自由遊び	着替え 自由遊び かたづけ	着替え 自由遊び かたづけ	着替え 自由遊び かたづけ
9時	おやつ	おやつ	おやつ	設定保育
10時	おむつ交換 着替え 設定保育又は睡眠(月齢による)	設定保育	設定保育	
11時	給食 おむつ交換	給食	給食	給食
12時	午睡	午睡	午睡	午睡・午後活動
13時				
14時	おむつ交換 着替え おやつ	着替え おやつ	着替え おやつ	着替え おやつ
15時	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
16時	降園準備 順次降園	降園準備 順次降園	降園準備 順次降園	降園準備 順次降園
17時				
18時	軽食	軽食	軽食	軽食
19時				
20時	保育終了	保育終了	保育終了	保育終了

〔年間プログラム〕

多種多様な行事を実施し、日本の四季・古来の伝統などを肌で感じてもらう。また、各行事に参加することにより団体での連帯感も養っていく。味覚狩りにも積極的に出かけ、自然の移り変わりに関心をもたせ、四季の旬の果物、野菜の収穫を実際に体験する。

コロナ感染拡大状況により臨機応変に対応していく。

	主 な 行 事
4月	入園進級式 野菜収穫
5月	こどもの日集会 参観日 お茶摘み 野菜収穫
6月	星観察 田植え プール開き サッカー教室
7月	七夕会 夏祭り
8月	どんどこ祭り 野菜収穫
9月	お泊りキャンプ 味覚狩り(栗拾い) お月見集会 サッカー教室
10月	運動会 野菜収穫(芋ほり) 米収穫
11月	味覚狩り(みかん狩り) 参観週間 野菜収穫
12月	餅つき クリスマス会 年末集会 サッカー教室
1月	お正月お楽しみ会
2月	生活発表会 節分会 お別れコンサート
3月	ひな祭り会 お別れ遠足 卒園式

〔体操、そろばん、英会話教室、書道教室・絵画教室・音楽教室〕

外部講師により、体操指導(3歳児以上)・そろばん教室(4歳児以上)・英会話教室(3歳児以上)、書道教室(5歳児)・絵画教室(4歳児以上)・音楽教室(全園児)を無料実施する。

〔野菜・米づくり、植物栽培、生物の飼育〕

近隣の畑、田んぼをお借りして、野菜作り・米作りをし、食の大切さを、また園で植物を育てたり生物を飼育観察したりすることにより、自然の仕組みを理解し命の大切さや優しさを養う。

また、お茶摘みにもチャレンジし、新茶の時期に手で一つ一つ摘む作業で緑茶の葉の香りと感触を味わい、自分で摘んだお茶を振舞う過程まで体験し、日頃何気なく飲んでいるお茶の仕組みにも興味を持っていただきたい。

〔絵画の取り組み〕

いろいろな体験を素通りするのではなく、表現することによって、豊かな心が育つ原点になると考え、また、表現したことが認められる環境にいる子は、自分のやることに自信を持って前へ進めるようになるとの思いから、コンクールへの入選を目指して取り組んでいく。

〔徳育の充実〕

共通のルールを守ることや他人を思いやるといった道徳はとても大切なことです。徳育の充実に向けては、発達段階ごとの特徴を踏まえることが重要であり、乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成、幼児期からの多様な体験を通じた人間関係能力の学習、言語能力の育成、幼児期から就学前における「してよいこと、しなければならないこと、してはならないこと」についての充実した指導「心に響く指導」、社会や集団のマナー・ルールに関する継続的な指導、法や決まりの意義の理解など各発達段階において、わかりやすく自然な形で身につけられるよう取り組んでいく。

〔園庭の充実〕

園庭で、自然・季節を感じ、そこから学びや発見が有るような環境整備(修繕)をしていきたい。

〔本物を知る〕

プロのサッカー講師や楽器奏者の方から、聞く・知る・学び・体験し、本物を知る機会を作る。また、姉妹園の園児さんとの交流の場にもしていきたい。

4 健康管理

ア 健康管理

「よく遊び」「よく学び」「よく食べて」「よく眠る」。この全てを行うことにより、健康に成長していくと考える。各検診により早期発見、早期アドバイスを行い、保育園生活が健康に送れるよう援助する。

健康診断	乳児 月1回 幼児 年2回(6月・12月)
歯科検診	年2回(6月・11月)
耳鼻科検診(3歳児以上)	年1回(6月)
眼科検診	年1回(6月)
尿検査(3歳児以上)	年2回(6月・11月)
聴力検査(4歳児以上)	年2回(5月・11月)
視力検査(4歳児以上)	年2回(6月・12月)

イ 給食

質や量のバランスを考えた献立を作成する。季節の素材を積極的に取り入れ、できるだけ地元食材を利用し、嗜好に富んだ食事を提供する。子どもたちにも、季節の食材を知りその特徴をわかりやすく伝え、食することで体にどのような効果があるのかなど積極的に食に興味を持ち食べる意欲につながるように伝えたい。保護者や医師と連携してアレルギー除去食もしっかり提供する。食事をするというより「食事の時間を楽しむ」環境作りを行う。

ウ 安全管理

交通安全教育を年に2回、防犯教室を年1回実施する。

5 地域とのかかわり

町内と相互理解を図り、地域と一体となって子どもの健全育成に貢献する。

- ・ 町内会の行事には積極的に参加や協力をする。園の行事にもお誘いする。
- ・ 近隣の小学校とも連絡を密にし、卒園児がスムーズに進学できるよう努める。
- ・ 近隣の公共機関(郵便局・交番・駅など)に、勤労感謝の日に訪問し、仕事を理解し、感謝の気持ちを伝えるようにする。

6 防災計画・危機管理

保育中におけるさまざまな災害に対して、全職員が速やかに対応できるように訓練を行う。

- ・ 避難訓練・消火訓練 月1回
- ・ 総合防災訓練・風水害訓練 年1回
- ・ 防災設備の委託点検、震災訓練 年2回
- ・ 交通安全防犯教室 年2回
- ・ 防犯不審者対応訓練 年1回
- ・ 非常災害備品の設置

7 職員処遇

自己チェックリストなども活用し、保育を振り返り、自己評価を通して専門職としての資質向上に努める。施設外研修などにも、状況を考えながら参加し自己の力量の向上に努める。また職場内研修の充実をはかり全職員のモチベーションアップに努める。保育士養成校、ハローワーク、人材バンク等との協力体制・求人方法なども工夫し職員確保をしていく。現在働いている保育士の離職率を下げる対策として、各種資格取得希望者に対しては、積極的に支援を行っていく。

休憩時間の確保、ノンコンタクトタイムの確保や、年1回以上の職員面談で職員の意欲・希望などを聞き取り少しでも生かせる職場環境づくりをしていく。

ア 健康管理

健康診断	年1回	全職員
細菌検査	月2回	(給食従事者、0歳1歳児担当者)
ノロウイルス検査	月1回	(給食従事者)
予防接種	全職員対象にインフルエンザ予防接種実施	

イ 各種会議

定例会(職員会議・給食会議)	月1回
行事前打合せ会	随時
委員会	随時(リスクマネジメント・苦情解決・第三者・倫理・サービス向上)

ウ 研修計画

保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた計画を作成し、研修機会を充実していく。

エ 福利厚生

JTB福利厚生サービス加入

オ 一般事業主行動計画

次世代育成支援として次の項目に取り組む。

年次有給休暇の取得促進

子ども参観日の実施

カ 保育日誌、保育計画、出欠表等の書式をパソコン化し業務の効率化を図る。各保育室で空いた時間を有効的に使い文書作成を行う。

キ いろいろな面で業務の効率化を考え、残業ゼロを目指します。

8 子育て支援

乳幼児及びその保護者が交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行います。

また、保育園にて平日の10時から15時まで相談を受けたり、インターネットによる24時間相談受付を行う。

9 地域子育て支援拠点事業

地域で乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供の場を提供し、地域での子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感などを緩和し、子どもの健やかな育ちを促進する拠点となりたい。(週3日実施)

もっと利用しやすい環境を整える為、必要なものは整備していく。

10 病児保育事業(体調不良対応型)

園において体調不良になった子どもに対して、常勤看護師による個別医務室での対応により、家族にも子どもにも安心できる体制を維持する。

11 1号認定児童の受入れ

1号認定枠(満3歳以上で就学前の保育の必要がない子どもたち)の園児も積極的に受け入れる。

12 各保育室の保育環境の見直し

各年齢の子どもたちがより落ち着ける環境の中で、日々の生活・活動ができるよう環境の見直しを考えそれに伴い必要なものは整備していく。

13 WEB請求への切り替え検討

毎月の保育料、延長保育料・給食代の請求について、業務の省力またコストも考え、WEB請求に切り替えていく方向を検討する。

1 4 他園との交流

法人内の他事業所の園児さんとの合同行事等を定期的にもち、人とかかわりを増やし、時には協力また競争いろいろな感情を豊かにする環境づくりを行う。

職員においても、他園での保育を実習・見学する機会を設けお互いの園がレベルアップできるようにしていく。